



A 型彼氏



詩風エッセイ集

皆岡 樹史



目次

A 型彼氏	
愛の重さ	3
生きているんでしょうかー	4
一票	5
イン・マイ・ライフ	6
うま足りない	7
A型彼氏	8
丘の向こうのエントツ	9
歌謡曲の仕返し	10
黄身色ろまん	11
今日の糧	12
クラクション	13
ご時世	14
こどもの日	15
この絵の具	16
座右の銘	17
捨て身技	18
生死の呼吸	19
素朴な痛みの疑問	20
だんだん	21
テレパシー	22
取り越し苦労する人たち	24
何でもない日常	25
早口経	26
ひとりぼっちのあいつ	27
蛇屋のおっちゃん	28
街の食堂で	29
迷惑な話	30
目が覚めたら	31
友人の死	32
汚れたタオル	33
LOVE	34

私の才能は	35
奥付	39

A 型彼氏

愛の重さ

どこまでの愛なのかは知らないが
彼女は彼を愛しているようだ。
一方彼がどうなのかというと
それが何にもわからない。こちらは
そのなれそめすら知らないのだから
愛の重さ推し量ることが出来ないのだ。

わかっているのは彼は彼女よりも
ずっと年が上で、彼女は彼よりも
ずっと年が下だということだ。
つまり二人は今風に言うと
年の差カップルということになる。
これがまた愛の重さを隠してしまう。

とりあえず、二人の愛の重さが
いかほどのものかはわからないが、
この先どう展開するのもわからないが、
ただ今言えることが一つだけある。
それは二人っきりでカラオケに行っても
盛り上がらないだろう、ということだ。

生きているんでしょうかー

あのー、
教えてもらいたいことがあるんですけどー、
わたしは生きているんでしょうかー。
生きているって思い込んでいるだけで、
本当は生きてないんじゃないんでしょうかー。
今持っている色々な幸せだってー、
今抱えている様々な問題だってー、
現実のことだと自分勝手に思い込んでいるだけでー、
本当は生きてない自分の妄想ではないんでしょうかー。
ねえ、わたしは生きているんでしょうかー。
本当に生きているんでしょうかー。
本当に本当に生きているんでしょうかー。

一票

『この人とは友だちになれるだろうな』
そんな感覚で私は一票入れるのであります。
もちろん具体的な政策や高尚な思想は
大切であるとは思いますが、
要はその人の持つ人間性じゃないですか。

先日ある方と話をしておりまして
「某候補は東大を出だから立派なんだよ」と
その方は言っていたのでありますが、
東大出というのは履歴の一つじゃないですか。
そこに何ら人間性は見えてこないのであります。

とにかく思考が世間とかけ離れた人ではなく
見るからに偉そうに振る舞っている人ではなく
私たちと同じような普通の生活をしていて
友だちのような気楽さで付き合っていけそうな
そんな人に私は一票入れるのであります。

イン・マイ・ライフ

生活の蓄積が人生なわけだから
今日のちょっとした出来事も
ぼくの人生だと言える。
時には、そのちょっとした出来事が
人生の方向を大きく変えることだってある。
だからちょっとした出来事といっても
決して疎かには出来ないものだ。
ただ、それにこだわるとだめなんだな。
たとえば晩飯の中に
大っ嫌いなグリーンピースが入っていたことを
根に持ったりするとろくなことがない。
最初は「こんなもの入れやがって」という
ちょっとした怒りに過ぎなかったのに、
そのうち「あいつは殺す気だったんだ」なんて
被害妄想にまで発展することもあるんだ。
だから大っ嫌いなグリーンピースのことは
今この時点でさっさと捨ててしまうんだ。
そしてグリーンピースのことを気にしない自分に
一つマルを付けて喜びとするんだ。
そのマルがたくさん貯まっている時というのが、
実は人生がいい方向に向かっている時なんだ。
きっといいことがある。

うま足りない

うどんを食べている時ふと
「うま足りない」という言葉が
頭の中をよぎった。
別にその店のうどんが
まずいという意味ではない。
あと一歩でうまくなるという意味で、
何かひと味足りないのだ。
ぼくはグルメとかいう
味に神経質な人間ではないから、
どのひと味なのかがわからない。
だから具体的に批評できない。
それが口惜しい、もどかしい
何かが足りないんだよ。
うま足りないんだよ。
大声でそれを叫びたい。

A型彼氏

彼女は血液型占いの信奉者で
血液型で人を判断していた。
彼氏の血液型はA型らしく
なるほど彼女の言う通り
彼氏はA型の思考をして
A型の行動を取っていた。
彼女は彼に好意を抱いてから
A型人間を意のままに操る術を
研究し、確立し、実行した。
彼氏はうまく術にかかり
彼女に結婚を申し込んだ。
万事彼女の思惑通りだった。
ところが結婚してからのこと
ひょんなことから彼女は
彼氏の血液型がA型ではなく
実はB型であることを知った。
そのとたん彼女の愛情は冷め
破局の道を転がっていった。
血液型の術に操られていたのは
実は彼女だったという一席。

丘の向こうのエントツ

ここでカ一杯ジャンプをすると
丘の向こうのエントツが見える。
灰色がかったエントツが見える。
そのエントツは高いのか低いのか
今は冬が町全体に被っているので
こんな簡単なことがわからないでいる。

ここでカ一杯ジャンプをすると
丘の向こうのエントツが見える。
灰色がかったエントツが見える。
そのエントツは太いのか細いのか
春になれば少し先に進めるので
自ずとその謎も解けるはずだ。

ここでカ一杯ジャンプをすると
丘の向こうのエントツが見える。
灰色がかったエントツが見える。
そこは工場なのか廃墟なのか
夏がくればさらに先に進めるので
そんな疑問も起きないはずだ。

ここでカ一杯ジャンプをすると
丘の向こうのエントツが見える。
灰色がかったエントツが見える。
そこに人は住んでいるのかいないのか
秋にはすべてを制しているので
そんなことどうでもよくなっている。

歌謡曲の仕返し

二十歳を過ぎた頃、
よくブルースを聴いていた。
誰の曲というのではなく、
手に入る音源すべてに耳を傾けた。
レコードのあのプチプチという
ノイズの合間から漏れてくる
音の流れが心地よく、
心をそこに遊ばせていれば
幸せな気持ちになったもんだ。
他の音楽なんかどうでもよくて、
歌謡曲などはほとんどなめていた。

あれから三十年以上経つのだが、
今でもブルースを聴いているのか
というと、そうではなくて、
なぜか二十歳の頃になめていた
当時の歌謡曲を聴いている。
心をそこに遊ばせていれば
幸せな気持ちになれるんだ。
ただ、ほどほどにしておかないと、
実らなかった恋だとか、
叶わなかった夢だとか、
けっこう辛い過去がよみがえってくる。

黄身色ろまん

どこまで青で描きましょうか
どこから赤を使いましょうか
緑が植物なんてありふれてます
茶は曖昧に使いましょう
わかってます。わかってますよ
ちゃんとメインはあなたのあの
大好きである黄身色を使いますよ

ああ、そういえば
黄緑という色がありましたね
黄土という色もありましたね
黄金という色だってありますよね
どれも元はあなたが大好きである
あの黄身色の仲間なんですね
だからあなたの潤んだ瞳の色も
あなたの癖のある髪の毛の色も
あなたの沈みがちな心の色も
みんなみんな黄身色にしましょう
それでぼくも救われるのですから

今日の糧

そこからここまで切り取って
今日の糧にするんです。
捨てるどころなんてありません。
無駄なところなんてありません。
何もかもを食べるんです。
みんなみんな食べるんです。
毎日毎日生きてるんだから
毎日毎日おいしいんだから。
バッサリ一日を切り取って
今日をゆっくり味わって
今日をじっくり蓄えて
明日の力にかえるんです。
明日の夢に向かうんです。

クラクション

車を運転していて怖いのは、
夜の歩行者の飛び出しだ。
子供や年寄りが飛び出すのではない。
ウォーキングに励む中年男女だ。
自分のペースを乱されるのが嫌なのか、
青になるのを待とうとしない。
これなら違反にならないと、
横断歩道の手前を歩く奴もいる。
いくら歩行者が悪くても、
撥ねたら運転者の責任だ。
運動だけが健康の条件ではない。
安全も健康の条件なのだ。
青になるのが待てないのなら、
ウォーキングなんてやめてしまえ。
おまえら一生高血圧の、
醜く肥えたブタでいろ！
ブーブー・・・

ご時世

新興住宅地にコンビニDが出来た。
その真ん前にコンビニSが出来た。
近くのバス停前にコンビニFが出来たので
コンビニDとコンビニSが潰れた。

スーパーの横にコンビニSが出来た。
そのせいでスーパーが潰れた。
その跡地にコンビニLが出来た。
熾烈な闘いの末にどちらも潰れた。

酒屋が潰れてコンビニSが出来た。
パチンコ屋の前にコンビニSが出来た。
病院の横に別のコンビニSが出来た。
三つともえだが一応皆健在だ。

コンビニSが潰れコンビニFが出来た。
その並びにまたコンビニSが出来た。
数百米離れた場所にコンビニLが出来た。
どこが先に潰れるか住民は賭をしている。

こどもの日

こどもたちはいっぱいいっぱい
しいたげられて屁も出ない
学校と、塾と、習いごと
与えられた遊びと、日和見ゲーム
決められたルールと、エゴのムチ
親御の見栄と、大人の理想
世の偏見と、ランク付け
もうこれ以上飲めません
こどもたちはいっぱいいっぱい
しいたげられて屁も出ない

この絵の具

この絵の具は使えば使うほど
色も量も増えてくるので、一生
不自由なくお描きいただけます。
ただし使い続けなければ駄目で
いったん筆を置いてしまうと
絵の具は一気に減ってしまいます。

まあ減ってきた時点で再開すれば
多少の時間はかかるものの
絵の具は元に戻るのですが、
もし使わないまま放っておくと
絵の具は固まってしまって
二度と出てこなくなります。

そこまで行くともう使えません。
だから少しずつでもいいですから、
絵の具を使い続けて下さい。
生涯の画を描き続けて下さい。
そうすればこの絵の具は確実に
あなたそのものになるでしょう。

座右の銘

「いろんなことに悩む暇があったら
さっさとネタにしておもう！」
色々な自己啓発書を読んでみたり
思考に耽ったりしてみたけれど
結局はここに行き着くんだな。
小さなことにクヨクヨしている時や
嫌なことに心を奪われた時に
いつも心の中でよみがえる言葉だ。
ウェブ日記なるものを書き始めた頃
文章の流れの中で偶然出てきた言葉で
以来ぼくはこの言葉を座右の銘とし
めげそうになる自分を励ましている。
この言葉を思い出しては現実を客観視し
小さなことにクヨクヨしている自分や
嫌なことに心を奪われている自分を
大いに笑い飛ばしているのだ。

捨て身技

柔道に捨て身技というのがある。
自分の身を捨てて、
相手の力を存分に利用する技だ。
巴投げとか、谷落としか、
えらく名前がかっこいい。
体の小さな日本人が、
体の大きな人からの、
力尽くの攻撃を、
いかに防ぐかを工夫して
できあがったのが柔道だ。
捨て身技はその中でも、
体格的に情動的に、
日本人に向いている。
身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ—
相手は力尽くでやっているのだから、
そろそろ決着着けましょう。
投げ飛ばしてやりましょうよ。

生死の呼吸

何かことが終わる時は
小説の最終章のような
自分勝手な括りはなくて
ドラマの最終回のような
仰々しい予告もなくて
実にあっさりと自然に
終わっていくものだ。

ぼくが病院を好まないのは
勝手な括りを示してみたり
最終回の予告をしてみたり
迷惑至極な存在だからだ。
この世あの世を意識せず
あっさりゆったり気持ちよく
生死の呼吸をぼくはしたい。

素朴な痛みの疑問

女子が子供を産む時と
男子が股間を打つ時と
いったいどちらが痛いんだろう。
おそらくそれは人類が持つ、永遠に
わからない疑問の一つかもしれない。
たとえば前世女子であって
その記憶をすべて持ったまま
今世男子に生まれたとしたら
それはわかるだろう。が、さて
そういう人がいるのだろうか。
今の科学は輪廻転生なんて
認めないから、決して
調べることなんてしないだろう。
ということで陣痛と金痛と
いったいどちらが痛いんだろう。
ただ一つだけ言えることは
陣痛の向こうには喜びがあるが
金痛の向こうには空しさしかない。

だんだん

社会というのはね、
人間の持っているこだわりという
不可解な部分をテーマにした
喜劇なんだよ。つまり
こだわりとこだわりとの
ぶつかり合いというおかしさで
この社会は成り立っているんだ。
だからこんな不可解な
世の中になるんだよ。
こだわりをなくすと
何ごともすんなりいくのに
なぜか人間というのは
こんな喜劇を作りたがるんだね。

でもって世間というのはね
人間のもっている勘違いという
やっかいな性質をテーマにした
悲劇なんだよ。つまり
勘違いと勘違いとの
ぶつかり合いという切なさで
この世間は形作られているんだ。
だからこんなやっかいな
世間になるんだよ。
勘違いをなくすと
何ごともぎくしゃくしなくなるのに
いつまで経っても人間は
こんな悲劇をやめないんだね。

だんだん

テレパシー

生まれてからこのかた
テレパシーが出来る人に
お目にかかったことがない。
ぼくが考えごとをしている時に
突然「その通りだ」なんて
言ってきた人はいなかったし、
「それは違う」とぼくの心に
語りかけてきた人もいなかった。
そういう理由から、
テレパシー人に会ったことがない
ということになっているわけだ。

とはいうものの、
ぼくが知らないだけでぼくの心を
読んでいた人はいたかもしれない。

例えば小学生の頃、誰かが
ギャグを飛ばしてクラス中が
大爆笑の渦になったことがある。
「くだらんギャグを飛ばしやがって。
全然面白くないじゃないか。
たいたいこの程度のギャグで
笑うヤツも笑うヤツだ」と、
ぼくが一人笑わないでいた時
ぼくの方をジーっと見ている
ヤツがいた。もしかしたらあいつは
テレパシーを使って、
他の人と違った考えをしていた
ぼくの心を観察していたのかもしれない。

だけど、ぼくはそのことを確認してない。
ヤツは無口だったから何を聞いても

答えてくれそうにないと思ったからだ。
いや、実はヤツがテレパシーを使って
ぼくにそう思わせていたのかもしれない。

取り越し苦労する人たち

鎌倉期に仏教の思想でこの世は滅亡した。
1999年にキリスト教の思想で人類は滅亡した。
2012年にマヤの思想で地球は滅亡する。
洋の東西を問わず、
人間というのはこういうのが好きなんだな。
まあ、取り越し苦労する人たちが
自分の心配を紛らわせたいがために、
世間を煽っているだけなのだろうが、
まったく人騒がせな人たちだ。
要は己の心配自慢じゃないか。
そんなに行く末が心配なら、
そんな暗いことばかりにこだわらず、
もっと明るい未来に目を向けたほうがいい。
そうすれば生きていくのが楽しくなるし、
心配事に心を奪われることもなくなるはずだ。
さて1999年の時がそうだったように、
きたる2012年が何事もなく終わったら、
取り越し苦労する人たちは、
また新たな人類滅亡の年を設定するだろう。
仏もだめ、キリストもだめ、マヤもだめ、
次はいったいどの思想を持ってくるのだろう。

何でもない日常

夏のある日、
携帯電話の向こうにいる友人と
思い出話にふけていると、
自転車に乗った二人の女子高生が
笑いながら目の前を過ぎて行った。
夏がよく似合う年頃なんだろう、
制服の白が太陽の光を浴びて
えらくまぶしく見えている。
あの子たちにもきっと、
今日のような何でもない日常が、
青春の輝いた一ページのように
思える日がくるんだろうな。
そして今日のぼくのように
携帯片手の思い出話にふけるんだろうな。

早口経

チーン、チーン、チーン

坊主は上手に屏風に
隠れてそろばんはじく
坊主は上手に屏風に
隠れて金貯める

坊主は上手に屏風に
隠れて寄付つもの
坊主は上手に屏風に
隠れて土地を買う

坊主は上手に屏風に
隠れて毒を吐く
坊主は上手に屏風に
隠れて嘘をつく

坊主は上手に屏風に
隠れて酒を飲む
坊主は上手に屏風に
隠れて女抱く

坊主は上手に屏風に
隠れて咳をする
坊主は上手に屏風に
隠れて手抜きする

チーン、チーン、チーン

ひとりぼっちのあいつ

孤独を装うことは出来ても
孤独でいることは出来ない。
いくら孤独でいると思っていても
君の息づかいは世界中の人たちに
ちゃんと聞こえているんだ。
「こんな世の中大嫌いだ」
なんて叫ぶ君がいる。
「別に生まれたかったわけじゃない」
なんてほざく君がいる。
君らはすでに忘れていて、
自ら望んで
この世の中に生まれてきたことを。
人恋しさの発露が
君を形作っていることを。
それを忘れさせたのは
根拠のないプライドと、
孤独でいるという思い込みだ。
それを時代や親のせいにするなんて
もってのほかだ。
生きとし生けるものの世の中は
おかげさまが織りなす綾なんだから、
孤独でいられるわけがないじゃないか。
いくら自分が孤独だと言い張っても、
言い張る時点で孤独ではないんだ。
だから何度でも言ってやる、
孤独を装うことは出来ても
孤独でいることは出来ない。

蛇屋のおっちゃん

八幡様の鳥居の前で、おっちゃん
いつも商売をやっているけど、
何で境内でやらないんですか。
普段は誰もいない神社だから
町内会に頼んだら、すぐにでも
使用許可は下りるでしょ。

それとも何ですか、おっちゃんは
八幡様の境内が怖いんですか。
そこに何かを感じているんですか。
だから鳥居の前でやるんですか。
それなら十分に納得出来ますよ。
いつでも逃げられますからね。

実際何を売っているか知らないけど
どんな素性のものかは想像出来ます。
例えば地を這ったり、地に潜ったり
だんだん大きく大きくなって行って
だんだん手に負えなくなって行って
ついにどこかに逃げて行くんですよね。

はいはい、だいたいわかりますよ。
手に取るようにわかりますよ。
その時飼い主がどうなっているのかも。
どんな状態で寝ているのかも。
だからおっちゃん八幡様の境内が
どうにも苦手なわけなんですネ。

街の食堂で

街の食堂でラーメンを食っていると
三人連れのおばさんが入ってきた。
「えっ?! えっ?! えっ?!」
におうんですよ。におうんですよ。
くさいんですよ。くさいんですよ。
何がって? 決まってるじゃないですか
香水ですよ、香水ですよ。きついヤツ。
いるんですよ、いるんですよ。相変わらず。
場違いなにおいを連れてくる
気取りに気取ったおばさんたちがね。
鼻から息が吸えないじゃないですか。
味がわからなくなるじゃないですか。
ラーメンがまずくなるじゃないですか。

迷惑な話

二十五年ほど前になるかな
その頃住んでいた団地の最上階から
飛び降り自殺を図った男がいた。
団地は十三階建てだったので
もちろん即死で、あたりには
血糊など体内の諸々が散らばっており
落ちた場所には塩が撒かれていた。
男は市外に住む人間で、その当時
団地に住んでいた人たちとは
縁もゆかりもなかった。それだけでも
充分迷惑な話だが、何と彼は今、その
付近を霊となって漂っているというのだ。
どれだけ人に迷惑をかけたらすむのだろう。
そういう奴だから、生きていた時にも
かなり人に迷惑をかけていたと思われる。
閻魔様は彼のような迷惑野郎に
どういう罰を下しているのだろう。
街の中を浮遊させるのは迷惑至極、
道路の脇に座らせるのも迷惑千万、
早くあの世に引き取って
二度とこの世に出さないでもらいたい。

目が覚めたら

目が覚めたら、
まず周りを見回して
確かめてみましょう。枕元に、
読みかけの本があるかどうか。
数分進んだ目覚ましがあるかどうか。
嫁さんが横に寝ているかどうか。

同じ状況にあるのなら
ちょっと空を飛んでみましょう。
もし飛べないようであるなら
それでいいのです。大丈夫です。
あなたは生きています。
さあ今日を元気に始めましょう！

友人の死

長く病んでいた友人が昨日
自分の世界に帰って行った。
この世にあった苦しみも
悲しみも怒りも煩わしさも
すべてチャラにしてしまって
今頃は深い深い安堵の中に
その心を落ち着けているのだろう。
小窓から見える彼の顔は
安らかそのものだった。
その顔を見てなぜかぼくも
穏やかな気持ちになった。

汚れたタオル

家族総出でバスに乗って、
家族総出で街に出る。
そういう家庭が多かったから、
休みの日もバスは多かった。
そういう家族が集まるから、
休みの日の街は賑わっていた。
ついでに家族総出で映画に行つて。
ついでに家族総出でラーメンを食つて。
だから映画館は潤っていた。
だからラーメン屋は味を鍛えた。
家族の和が景気に繋がり、
家族の和が経済を発展させた。

工場のおいがしても文句は言わず、
石炭の煤が降つてきてもマスクなどせず、
汗にまみれた人たちに親しみを持ち、
汚れたタオルに生きる力を感じた。
すべてが繁栄の証だった。
すべてが夢への架け橋だった。
それを人々は理解していた。
そこには家族の教えがあった。

家族総出でバスに乗って、
家族総出で街に出る。
昭和の中頃、
日本人が夢を見ていた頃の話だ。

LOVE

1,
今我々が宇宙と呼んでいるものは
実は一つの生命体なのだという。
そして宇宙意思と呼ばれる
その生命体の持つ欲求が、
この宇宙で最高の美となり
人はそれを愛と呼ぶ。
つまり愛の意味するものすべてが、
宇宙意思であり、
この生命体の欲求だというわけだ。
高尚、深遠、壮大かつ助平である。

2,
例えばその生命体が蚊だったら、
その生命体の持つ欲求、
つまり血が最高の美なのだから、
血を愛と呼ぶのだろう。
そこに棲まう生物の持つ宗教は、
もちろん血であって、
血を求め、血に感謝し、
血に心の安らぎを得る。
我々異次元の生物から見ると変に思えるが、
彼らにはそれが唯一無二の
愛であり、真理なのだ。

例えばその生命体がハエだったら、
真田虫だったら、
フンコロガシだったら…
愛はリアルである。

私の才能は

私の才能は群を抜いていて
誰よりも誰よりも多くの
男を手玉に取ることが出来る、と
遊び好きなA子は思っている。

私の才能は群を抜いていて
誰よりも誰よりも多くの
女に愛されている、と
女たらしのB男は思っている。

私の才能は群を抜いていて
誰よりも誰よりも莫大な
資産家になることが出来る、と
吝嗇家のC美は思っている。

私の才能は群を抜いていて
誰よりも誰よりも長く
寝ることが出来る、と
怠け者のD郎は思っている。

私の才能は群を抜いていて
誰よりも誰よりも完璧に
患者を治すことが出来る、と
女医のE香は思っている。

私の才能は群を抜いていて
誰よりも誰よりも上司の
信頼を得ることが出来る、と
ゴマスリのF太は思っている。

私の才能は群を抜いていて
誰よりも誰よりも輝いて

目立つことが出来る、と
女優のG代は思っている。

彼らの勘違いは群を抜いていて
自分というものが
まったくわかっていないやん、と
意地の悪い私は思っている。

奥付

A型彼氏

著者：皆岡樹史（みなおか たつし）

著者プロフィール：

- ・昭和 32 年 福岡県八幡市生まれ
- ・モットー：『人生万事大丈夫！』
- ・趣味：作詞、作曲、弾き語り。
- ・影響を受けた人：一遍，盤珪，高村光太郎，中原中也，ボブ・ディラン，吉田拓郎
- ・影響を受けた書物：「老子」「臨濟録」「日本靈異記」「徒然草」「延命十句観音経靈驗記」
- ・影響を受けたマンガ：「あしたのジョー」「人間交差点」「シュマリ」
- ・ブログ：[\[https://detan.club\]](https://detan.club)

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパプー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社ブクログ

A型彼氏

著 皆岡 樹史

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
